



若 草

令和7年度

11月号

R7.10.31

「夢中になって走り切れ 喜びあふれる瞬間を」

10月24日(金)に行った運動会には、多くの保護者の皆様や地域の方々に御来校いただき、ありがとうございました。天候に恵まれず、運動場で練習する回数も例年に比べて少なかったですが、当日は熱い声援のもと、子供たちは練習の成果を十分に発揮することができました。高学年は、低学年を支えながら企画運営を行い、どの学年も仲間と力を合わせて、表現運動やペア競技などの練習に取り組みました。運動会を通して、自分の良さや友達の良さに気付くことができたと思います。



これから先、気温の差が大きく、体調を崩しやすい季節になります。体調を整えながら、2学期後半も子供たちの学びが深まるよう、引き続き支援していきます。

★全国学力・学習状況調査 児童質問調査の結果から★

これまで本校の課題となっていた「朝食の喫食率」や「読書への意識」といった生活習慣に関わる項目では、児童の肯定的な回答の割合が高くなりました。これは、家庭と連携した取り組みの成果と受け止めています。また、本校の強みとして、「人の役に立ちたい」「自分には良いところがある」と答えた児童の割合が、引き続き全国平均を上回る結果となりました。これは、家庭や学校生活で培われている、自己肯定感や協調性の高さを示していると考えられます。引き続き「自分らしく ともに輝く子」の育成に向けて、教師一丸となって教育活動を進めていきます。

一方で、喫緊の課題として捉えているのが、タブレットやスマートフォンなどのICT機器の利用時間についてです。児童質問調査の結果では、タブレットやICT機器を使っている時間が全国平均よりも長いという傾向が見られました。

さらに、1学期末に本校で行った児童生活アンケートでも、放課後や休日にタブレットやスマートフォンを「1日あたり3時間以上」利用している児童が、特に高学年に多く、タブレットやスマートフォンを使っている児童の約3割いることが判明いたしました。

【長時間利用の影響と懸念】

長時間の利用は、学習や生活習慣への影響だけでなく、以下のような影響も懸念されます。

1. 睡眠不足や生活リズムの乱れ
2. 視力への影響や健康被害
3. 自主的な学習時間や、家族・友人とのコミュニケーション時間の減少

学校では、授業でICT機器を効果的に活用する方法や、情報モラル教育を進めてまいりますが、御家庭での御協力が不可欠です。

特に、成長期にある児童の心身の健全な発達のため、今一度御家庭でルールや使用時間などを話し合っていただくようお願いいたします。